

# JAMの主張

## 夏に大きな果実を得るために アクションカードの取り組みに協力を

機関紙JAM 2018年11月25日発行 第238号

中学2年の時に同じクラスだった〇〇です。お久しぶりです——。

もう数十年も顔を合わせず、しかも当時それほど仲が良かったわけではない人からの突然の電話。選挙が近くなった時期に、多くの方が経験したことがあるのではないだろうか。

前回の参議院選挙後のJAM組合員アンケートに、注目すべきデータが示されている。回答では、自宅に電話での働きかけを受けた組合員は約3割。組合支持の候補者に投票した方は、「電話あり」の68%に対して、「電話なし」は46%と、大きな差が出ている。さらに、「電話を受けて“うるさい”と感じた方でも、「電話なし」を上回る50%が、組合支持の候補者に投票したと回答している。

自宅への訪問に関する設問においても、さらには過去の2004年、2010年アンケートでも同様の傾向が示されている。これが意味することは、行動が必ず結果に結びつくということだ。

JAMの政策実現活動が、いま一つのヤマ場を迎えている。今年春から全組織を挙げてTANA会に取り組み、なぜ取り組まなければいけないのか、何をめざすのかなどについて、各組織でリーダーが組合員に説いてきた。そして現在は次のステップ、年内をメドに組合員に対するアクションカード記入の呼び掛けに全国のJAM加盟組合が取り組んでいる。

TANA会で耕した畑に、アクションカードの種を蒔き、年明け以降に大きな苗に育て、夏に大きな果実を得るために、この年末に向けた取り組みは大変重要な意味を持つ。

種を蒔かなければ芽は出ない。カードの取り組み要請自体が声を掛ける行動にほかならず、集約されたカードが、のちの電話・訪問の活動の礎となる。

カードの取り組みは、活動を深化させ、勝利を手にするために、絶対的に必要な取り組みだ。

『田中ひさや』を擁し、JAMの国会議席を奪還する取り組み。活動期間は残すところわずか7カ月。

全単組での取り組み推進と、組合員の皆様のご協力を、強くお願いしたい。

副書記長 椎木盛夫